

共立女子大学文芸学部報

文芸学部報 第二三三号
編集責任者 池上公平
二〇一五年四月一日
共立女子大学 文芸学部発行
東京都千代田区
一ツ橋二一二一

学部報に関する
ご意見・ご感想を
お寄せ下さい。
E-mail:
gakubuh@
kyoritsu-wu.ac.jp

大学随想

旅が、思いもかけない方向に人生を導いてくれることがある。

取り立てて旅行好きでもなかったのだが、大学三年生で美術史学を専攻したことで、否応なく旅に出る機会が増えた。特に、大学三年生の時に、授業の一環として参加した奈良への古美術見学旅行は、自分の関心が日本美術へ向かっていく大きなきっかけとなった。

日本美術史への旅

山本 聡美

良は蒸し暑かった。その後、四年生になって現代美術に関する卒業論文を書き、なんとなく大学院への進学を考えた時に、突然、本当に突然「日本美術史を勉強しよう」と思ったのだ。いきなり願書を出されたゼミの先生たちも、面喰らったことだろうと思う。大学院入試の面接では「君は誰?」という質問が、これからはぬいぐるみの形状を生かした巧みな置き方だと言えよう。

日本美術史への進路を決めたあの時の気持ちがなんだったのか、今でもうまくは説明できないのだが、奈良への旅行が意外と効いていたことは確かである。自分自身が気づいていなかった、自分の好きなものに、その時思いがけず果たしていると考えられる。こうして見ると、ぬいぐるみを持ち主に返ればよいというだけではなく、なるべくきれいな形で返したいという拾得者の思いが込められている場合もあることが分かる。生き物の姿をしたぬいぐるみ

出会っていたのだと思う。その後は自分の意志で関西へ足を運び、寺社めぐり、日本の古美術にますます魅かれていった。それから何年も経って、自分が学んだ大学で助手を務めることとなり、四月に着任して最初の大事な仕事、件の奈良旅行であった。研究室で代々継承されてきた旅行計画を踏襲するだけはあるが、総勢七十人になる学生・教員の宿泊先の手配から、見学の寺社への事前連絡など、時に深夜に及ぶ準備をこなして、無事に旅行が終わった時、ようやくこの旅の意味が分かった。

大学三年生の私が、さしたる感動もなく訪れた場所の全てに、その時どころの人間が訪れるべき大きな意図が、昨年、本学グラウンド裏で、初めてまた手つかずの落し物に出会った。地面に無造作に転がったぬいぐるみを目の前には、黙って立ち去るものさげもないのだ。拾い上げて、置くところや、自販機に回収されたか、そのうちだんだん焦ってきた。校舎の裏でぬいぐるみを手にとって立ちつくす中年男、いかにも怪しいではないか。結局、そそくさと学生課に届けたのであった。もし拙稿がきっかけとなり、ぬいぐるみと主人との再会が果たされれば、これにまさる喜びはない。

※なお、②は妻が発見、撮影したものである。
教授・中国語学

考みぐるみぐるみ路上

国分 建志

二年ほど前のある日、近所の神社を通りかかったとき、参道わきの石灯籠の中に、小さなネコ?のぬいぐるみが置かれていた。ぬいぐるみは、写真に写った(写真①)。落し物なのか、通行人が拾ってそこに置いたらしい。古びた灯籠と、カプセルなぬいぐるみとのミスマッチがなんとなく面白く、とりあえず写真に収めておいた。

それ以来、道ばたにぬいぐるみが置いてあると、自然に目に向くようになり、そのたびに写真に記録してきた。やがて、ぬいぐるみの種類や周囲の状況はまちまちでも、置き方には一定の法則性があるように思えてきた。はたし、みを見かける場合、たいしては誰かの手で別の場所に置き直されているのであろうか。そこで今回この「路上ぬいぐるみ」現象について、実例を元と考えてみることにした。

写真から分かるように、個人的な経験では、路上でぬいぐるみ落とされたぬいぐるみは、どの程度の割合で「置き直し」をされるのかは分からない。紛失に気づいた持ち主が取り戻ったり、ゴミとして処分されたりして現場から消える物も多いであろう。いずれにしても、転がったままその場に放置され続けることは少ないように思われる。

これまでに集めた「置き直し」の

実例からは、三つの共通点がある。まず置き場所には、「1」道路の左右の縁に接した空間の、「2」路面より高い位置から大人の肩くらいまでの高さ、が選ばれている。また、「3」ぬいぐるみは必ず道から顔が見えるような向きで置かれている。

これらはいずれも、ぬいぐるみを目立たせて、早く持ち主の元へ返したいという拾得者の願いの表れだと言えよう。特に「落し物」札がつけられた③からは、こうした意識をよりはっきりと読み取ることができるといえる。

ひと口に「置き直し」と言っても、置き方にはバリエーションがある。大きく、a、何かの上に乗せる、b、扉などに吊す、c、その他、に分類できる。条件がそろえば、第一選択肢となるのはもっとも手軽なaであろう(①②)。実例でもaが半数を占める。また条件とは、ぬいぐるみが安定して置ける形状をしており、④(上記「1」)

の条件を満たす適当な置き場所(北水平面)があることである。②ではイヌ?が鉄パイプにまたがるように置かれているが、これはぬいぐるみの形状を生かした巧みな置き方だと言えよう。

b(③④)はぬいぐるみに紐がついている紐にとられる方法である。この方法の利点は、ぬいぐるみを高く吊すことで、人目につきやすくできる点である。一方「欠点は、③に顕著なように、ぬいぐるみがまるで晒し者にされたかのような哀感を漂わせてしまう点であろうか。

c(⑤⑥)は、ぬいぐるみを置くことも吊すこともできない状況で、拾得者が臨機応変に工夫したものである。興味深いのはポリ袋に詰められた⑥である。袋詰めにしたのは、洗濯バサミで冊にとめるためでもあろうか。それ以上に、ぬいぐるみが雨露をしのげるようにしたかったのかもしれない。同様の思いやりは①にも見られ、この石灯籠はさりげなく雨避けの役目も

味があり、そのための時間と場所とを丁寧に準備してくれた人がいたのだということ。何十年と繰り返されてきた見学旅行の営みを通じて、顔も知らない先生や、先輩たちと同じ学びの道を踏査することの重みと面白さ。大学という場所に与えられた、知や経験の共有・継承・再生産のための贅沢な時間について。何よりも、志を同じくする仲間と旅をすることの楽しさ。

今でも、近鉄奈良駅の行基菩薩像前を通ると、故郷を訪れるような、懐かし切ない気持ちになる。自分自身の若さゆえの無知と愚かさ、その延長線上でかきたられた日本美術への憧憬と、そういった複雑な思いをかかえながら、登大路を、興福寺や奈良国立博物館や東大寺に向かって歩く。いつまでも、自分には要領を得ない「お客さん」だなあと思いつつ歩く。

(やまもと さとみ 教授・日本美術史)

心も時として認められるのではなからうか。木に実った果物のようにも見え、そんなユーモアを感じられないだろうか。こうした「遊び心」もまた「置き直し」を促す隠れた動機となっているのである。

さて、これまで私は「置き直し」(いへふ)けんじ 教授・中国語学



柴田賢治郎作 無題 0号

美の旅

半沢 幹一

彼の、いろいろな野菜を無造作に並べたような静物画が好きだった。けれど展覧会で見る大作では、とても家には飾れない。酒の勢いで、「ささくささく」のをど頼みこんで描いてもらったのが、上の絵である。

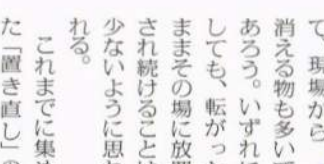
引き渡しのとき、いきなり「額が高かったんだぞ」とすこまれて、返答に窮した。カブも下がるよね。(はんざわ かんいち 教授・日本語表現学)



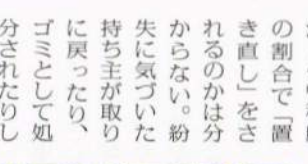
2



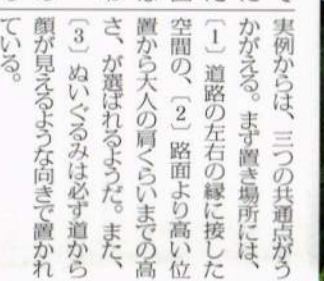
1



4



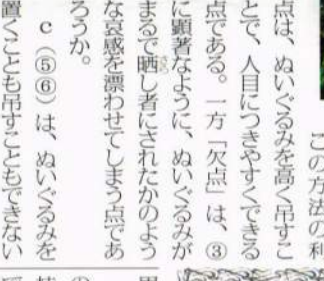
3



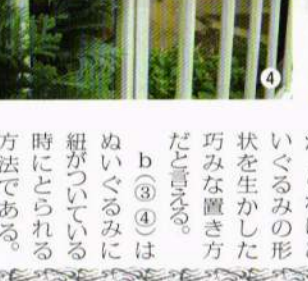
5



6



7



6

新入生への挨拶

文芸学部長 池上 公平



新入生の皆さん、入学おめでとう... NHKの大河ドラマ『花燃ゆ』の中で、吉田松陰が妹「おまへはどうか生きるのか」と問う場面がありました。

東へ西へ

岡田 ひろみ

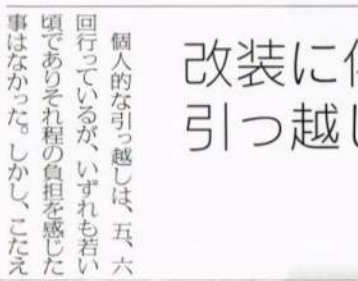
『源氏物語』や『枕草子』など、平安文学を読んでいる人... 現在も奈良の桜井市にあって、観音信仰で有名で当時の貴族がよく参詣したという

一期一家



就職のためにだけあるのではなく、その価値は大学生活そのものの中にある... 『サウイフモノニノワタシハナリタイ』。デクノボウとは役に立たない人の意味ですが、賢治はどうしてサウイフモノ

『源氏物語』の玉鬘は、だ。もちろん、辞書や地図で調べれば、その場所がどこにあるかという情報は手に入るが、身体感覚として「距離感」がつかめたのは、東京に引っ越してからの島らものエッセイを読むように、村上春樹のエッセイを読む



長谷寺の登廊とぼたん

場所だった。現地に到着したときの、地元の人々の第一声が「だからこの辺りの人は性格が暗いんだわ」というものだった。そのとき、周囲が暗く見えた気がした。暗いという言葉は、暗いということではなく、暗いという態度が、隣に住む

「引っ越し」をする場合、家だけが変更される。住む土地も変わる場合がある。これまでも、土地を渡す「引っ越し」を二度して、二度目が東京で、一度目は兵庫の豊岡という日本海側だった。「国境の長いトンネルを抜けると雪国であった」(川端康成)ではないが、同じ関西(近畿圏)とは思えないほど気候が違っていた。冬期は給料に「寒冷手当」までもついた。雪だけでなく、夏は雨も多かった。「弁当を忘れても傘忘れらん」という言葉があるくらい、一年を通して天候不順

改装に伴う引っ越し作業

水谷 靖

個人的な引っ越しは、五、六回行っているが、いずれも若い頃でありそれ程の負担を感じた事はなかった。しかし、こたえ

私の街は名古屋東部の、家康と秀吉の合戦で有名な長久手市に隣接し、学園都市でもある。この名東区藤が丘界隈は、今では桜が丘と呼ばれる程、桜が美しい。駅に続く並木路には美容室、学習塾そして飲食店が多い。そんな立地環境のせいか、居酒屋の業しみを覚えた。私の好きな居酒屋『Sチャ』は自宅から徒歩十分でオナー兼マスター一人の店だ。そうはいっても、転勤族でもない限り、そうそう住む土地を何度も何度も変えることはできない。そうなるため、せめていろいろな場所をめくりに出かけてみよう。喜んで案内もしますよ。まずは奈良の「長谷寺」はどうでしょうか。(おくだ ひろみ 教授・日本文学)

居酒屋の功用

水野 悦子



藤が丘の居酒屋街

彼を滅法お酒に強いのに、どこまでも姿勢を崩さず、いっつも質問を待っているようなあの雰囲気。次々に専門の本を紹介してくれたので、私はアマゾンで求め、公共図書館へも学生時代以上に足繁く通った。私はどうやら直情行型であるらしい。質問するだけでは物足りず、あげくの果てには電子辞書やノートまで持ち込み、もはやそこは研究室の模様を呈していた。その内に私の身辺に不思議な現象が起こり出す。先生との勉強から思いつく事象が現実の出い浮かぶ事象が現実の出

工芸科の管轄だが、上野校地にある木工室は元々師範科の設置されていた頃のもので、現在では美術教育研究室に所属している。主に工芸科の木工やデザイン科・建築科のクラフトや家具など、および油画・日本画科のパネルの製作、また美術科の教科科目等に利用されている。建て替え計画は早々から決まっていたが、突然美術館の建設が割り込んで、それが完成する六年後に後戻りした。改装に必要とされた経緯がある。木工室には、木材の加工を行う手押しカンナ盤・自動面カンナ盤・横切り丸鋸盤などの木工機械が十数機設置されている。古い建物では、後から後から機械が追加されることになる。古い建物では、後から後から機械が追加されることになる。

改装に伴う引っ越し作業は、五、六回行っているが、いずれも若い頃でありそれ程の負担を感じた事はなかった。しかし、こたえ

改装に伴う引っ越し作業は、五、六回行っているが、いずれも若い頃でありそれ程の負担を感じた事はなかった。しかし、こたえ

改装に伴う引っ越し作業は、五、六回行っているが、いずれも若い頃でありそれ程の負担を感じた事はなかった。しかし、こたえ

研究紹介 池上 公平 「イタリア・ルネサンス美術大図鑑」監訳 桜風舎、二〇一四年十二月 田口 亜紀 「日本の女性文化」『両大戦間の日仏文化交流』所収、ゆまに書房、二〇一四年十二月 谷田員 雅典 『新しいテレビ会議システムを利用した教育効果の比較』『視線一致型及び従来型(視線不一致)による遠隔教育と対面教育について』『日本文学振興会助成出版』二〇一四年十二月

引っ越しを楽しむ?

坂口 麗衣

と布団を敷くスペースへ入ら... 引っ越しは、共立女子大学に勤めて四年目の秋に結婚、引っ越し先は池袋であった。この時は本格的だったもので、両親にも手伝って貰った。主人は勤務先の嘉悦大学でバレーボール部の顧問をしていたので、試合と重なって不在であったが...



道路から見た我が家

追悼 木原貴子先生

中本 恭平



木原貴子先生が二〇一二年に発表された論文「授業における児童文学の読み方に関する一考察(一) 少女たちの冒険/アリス、ドロシー、モモの旅」を読むと、先生の児童文学に対する考えや、それを大学でどう扱うかについての姿勢がわかる。

引っ越しは頭が痛い!

ジャニック・マーニュ

フランスでは引っ越しの時見つかる物のベストテンに、ペン・デ・ロフのフェウが入る。来日以後はほぼ四年毎に引っ越ししている経験から次のような決心をした。一、ペン・デ・ロフはゴミ箱へ。二、片方の靴は二年間保管した後処分する(片方の手袋なら十年間)。三、ガレット・デ・ロフのフェウ...

心象点描

詩人の髪型

阿部 由香子

かれこれ二十年以上前のことなのに、覚えてくる出来事がある。大学三年の九月、教育実習のために中学校へ三週間ほど通っていた。担当になったのは二年生の国語で、三好達治「大阿蘇」の授業だった。詩人だったからラクかも... と思ったのは大間違いで、そもそも詩人についてきくと、緊張して座る私たちの前にお茶と最近の作品が収録されている同人誌を数冊と並べたうえで、「それで、これでお茶を飲んでもいいから、この授業ができるの、安心して授業してください」という口癖で、お茶を飲ませながら、中学校の教育実習で詩を教えないとならないこと、ついては詩人について少しも参考になることを教えていただければありがたいこと、などを一気に説明した。



異動・消息 (文芸学部専任のみ)
◆昇任
深津謙一(准教授)
阿部由香子(准教授)
村井華代(准教授)
上野慎也(専任講師)
吉澤弥生(専任講師)
◆退職
木原貴子
◆新任
杉村伸乃
市地英、及部美希、鳥野真由、野際萌未



英語英米文学

習うは一生

私が幼稚園の頃から十二年間習っていたアノの先生は、かなりの気分屋でした。時間にルーズで練習よりも話が長く、日によって違う注意をされることもあり、理不尽に感じたことが多々ありました。しかし、その経験から学んだことがありま...

〈文芸メディア〉

新年度のはじめに

文芸メディアコースの大きな変化は、島助手が退職して野際が助手が着任したことでしょう。その前には、何かを吸...

プロフィール

谷田貝 雅典 先生

(准教授)

「メインは教育工学で、今中心で研究しているのは遠隔教育です」とこやかに話されるのは、昨年度お話しになったのは、昨年度お話しになったのは、昨年度お話しになったのは...



先生の研究は一言で言えば、「裸眼3D視線一致型テレビ会議システム」というもの。従来のテレビ会議モニターとカメラがモニター上部についており相手と視線が合...

〈造形芸術〉

街に出よう

神保町から地下鉄で二〇分、歩いて三〇分くらいで銀座に着く。銀座は大人の街。色々な顔を持っているけれど、世界でも有数の画廊街でもある。都内にはおよそ四〇軒の画廊があり、そのうち銀座界隈には三〇〇軒近くがひしめいてい...

〈文芸教養〉

バックアップ体制

本コースでは今年度から卒業執行のための体制を刷新し、三年と四年のゼミを同じ先生が担当します。三年次から腰を据えて執筆を進め、就活の時期には卒論のベースを作っておくと安心です。またバックアップ体制の推薦図書リストも更新しました。

〈劇芸術〉

めぐりのあいは再び

昨年十一月、現在は地球の反対側で暮らしている女性と、久しぶりに会いました。ちょうど三十年前の十一月、その人が私に初めて宝塚歌劇を見せられたのです。あの出会いがなかったら、その後の人生は全く違ったものになっていたでしょう。もちろん、宝塚以外にも色々な舞台を見てきました。大学では外国語と文学を主に学んでい...

〈日本語日本文学〉

どんな髭剃りにも...

「こんな髭剃りにも哲学はある」。この言葉をはじめて出会ったのは村上春樹の文章の中(ラゲルハンス島の午後)でした。が、出典は『人間の絆』で有名な英国の作家サマセット・モーム。そんな細かなことでも、毎日口づけていけば、そこにおのずから哲学が生まれるというほどの意味で、この場合の「哲学」とは、よく意識せずに身に付いたその人独特のクセとか習慣というふうな捉え方を指すようささそうです。そこにはよい面もあるでしょうが、悪い面もあります。自分の髭の剃り方(哲学)が当たり前だと思いつつ、どうでもない髭の剃り方があってもいい、ということに想像が及びません。そうではない別の髭の剃り方に思いをめぐらせること。そこに、文芸学部で学問をするこの意義のひとつがあるのだと思います。とここで、日本語日本文学コースを五年間支えてきた谷田貝雅典先生が三月で退職されました。四月からは共立で「日本文学講義」等の授業を担当になりました。(深津)

〈就職課程〉

体験・実習資格審査

就職課程の履修は一年次の「就職入門」に始まり、四年次の「就職実践演習」で締め括られますが、途上に、三年次の「介護等体験」、四年次の「教育実習」という、学外での重要な体験・実習活動があります。どちらも実施の前年度に資格審査が行われます。どちらも教授会において警戒処分を受けていないことが当然条件として、それぞれ左記の要件を満たしていればよし。晴れて実習・体験に臨みます。○介護等体験資格要件・「就職入門」(一年次配当)と「教育学概論」(二年次配当)を履修済みであること。○教育実習資格要件・免許法に沿って設置されたすべての「教職に関する科目」(四年次配当)の「教職実践演習」を除くを履修済みであること。

〈司書課程〉

「資料」と「情報資源」

先日、他大学の司書課程の先生と話をしました。司書課程の授業科目に含まれる「情報資源」という言葉は以前は「資料」として(たゞは「資料」として)「情報資源」となりましたが、では両者の違いは？ という話題です。漢和辞典によると、「料」に「量を測る」という原義があり、「穀物や液体」などの意味があります。すなわち「手に取るもの」という意味を持ちまします。インターネット経由で得た情報は図書と異なり手に取ることはできません。パソコンなど「二時的な容器」に入れて閲覧しやすいため、「資料」とは言葉な合いました。インターネット上の情報を図書館が扱う現在、文部科学省が「情報資源」という言葉を使い始めたことは納得できます。一方、国立国会図書館は「インターネット資料」という言葉を使っています。その先生は「これは気持ち悪いね」とおっしゃっていました。両者の違い、あなたはどちらを考えますか？(藤田)

〈フランス語フランス文学〉

充実した学生生活を

これからフランス語を始めようと考えている方、春休みの間にフランス語を覚えてしまおうと奮闘している方、TOEFL iBT 五七点・IELTS 四・〇以上を取得していること。付け足して免許? とんでもない。計画的な履修で就職課程を完了し、見事卒業時に教員免許を手に入れたらいい。(葉柳)

ひと言ふた言

春はあけぼの

新入生のみなさん、ようこそ文芸学部へ! 清少納言『枕草子』にあるように、「春はあけぼの」です。実は「夏は夜一秋は夕暮れ一冬は風めて(早朝)」と続くことを存じていたか? 清少納言の時代は旧暦なので、現代の季節とは少しずれますが、日本には四季それぞれの良さがあります。新学期は慌ただしいですが、夜明けの景色を眺めながらの余裕が欲しいですね。決して「春眼を覚えず」にはならないよう気を付けましょう。入学して最初の大事な仕事は、自分で履修科目を決めることです。必修科目・選択必修科目・選択科目、この違いはわかりませんか? そして、自分が何を学びたいかを考えながら、ガイダンスや履修ガイドを参考にしっかりと科目を選びましょう。さて「基礎ゼミナール」(前期)と「文芸ゼミナール」(後期)は、科目名こそ違いますがメンバーは同じです。担当教員はクラス担任も兼ねますので、何かあったら、遠慮なく質問しましょう。(堀)

大学院文芸学研究科情報

四月より、大学院が生まれ変わりました。文芸学部を卒業した後の進路として、全てのコースの学生に開かれた大学院となります。日本文学、英文学、演劇学、文芸学の四つの領域が設けられ、研究テーマに応じて、より深く深く学ぶことができます。入試説明会も開きますので、興味がある学生は参加してください。七月に学内推薦もあります。(岡田)